

## 淀川左岸線最大8年遅れ 阪

### 2期工事、整備費100億円増か 大

大阪カシノ・IR（統合型リゾート）予定地の「夢洲（ゆめしま）」（大阪市此花区）へのアクセス道路として想定されている阪神高速「淀川左岸線」の完成が、最大で8年遅

れることが大阪市の資料でわかりました。また、2期工事の整備費は1000億円程度増加する見通しとなりました。

「淀川左岸線」2期工事は海老江から豊崎

までの4・4キロの区間で工事が行われています。昨年、軟弱地盤が発覚し、市が工法を見直した結果、完成が当初予定の2027年春から6〜8年遅れる見通しとなりました。

「夢洲」は25年開催する「大阪・関西万博」と29年開業をめざす大阪カシノ・IRの予定地です。

大阪市の松井一郎市長は2日、工法の変更に伴い整備費が約1000億円程度膨らむことについて、「地盤調査の考え方が甘かった部分は否めない」と釈明しました。代替道路として地上に車道を整備する場合は、追加で数十億円かかる見通し。

「淀川左岸線」2期工事の事業費は当初計画では1162億円でしたが、20年度に756億円増額。さらに1000億円増額となると、当初計画の2・5倍の約2900億円となります。費用は国が55%、大阪市が45%。カシノ誘致のため、関連費用がどんどん膨らんでいます。